

川西まほろば会は市民活動を応援します

公共施設のあり方や使用料について

市は、広報誌「milife」11月号において、「利用しない人も税金で負担」と題し、現在の公共施設のあり方について問題提起した上で、使用料を引き上げる方針を示しました。

しかし、私たち川西まほろば会は、「引き上げ(値上げ)ありき」の見直しは、現時点では実施すべきではないと考えています。



現在のところ、川西市の公共施設の維持・管理費用の大部分が、税金で賄われているのは事実です。これを「受益者負担(使う人が負担すること)」とするよう、市は使用料の引き上げを検討していますが、私たちは「支え合い」「助け合い」の観点から、税金によるある程度の負担はあっていいと考えています。

公共施設を使って活動している人が、活動することにより心が健康になれば、その分医療、介護、健康など、ほかの施策で市が使う税金が少なくて済みます。公共施設での数々の活動が川西市の文化を豊かにし、市の魅力となります。また、近隣市に比べて公共施設の使用料が安いというのも、川西市の魅力の一つと言えます。

もちろん、使用料が安ければ安いほどいいというわけではありません。財政事情など、あらゆる点を考慮し、適正化に向けて取り組むこと自体は否定しません。ただ、コロナの感染拡大

がいったん落ち着きを見せ、いよいよ日常を取り戻そうというこの時期に、激変緩和とはいえ使用料が5割増しになることは、到底考えられません。川西まほろば会は市に対し、適正な使用料のあり方を問うとともに、段階的な措置を要望していきます。

補助金のあり方について

市では、市民や各種団体に対する補助金についても、市長公約でもある「事業再検証」の取り組みにおいてゼロベースで見直しを進めています。市長の諮問機関である、外部有識者で構成される「行財政改革審議会」は、金額など数値による効果が見えない事業については、廃止や縮小など、おおむね見直しの方向性を示しています。

市民活動の実績や効果は必ずしも数値で表せるものではなく、むしろ数値で評価できない点にこそ得難い価値があると私たちは考えます。公共施設の使用料と同様、拙速に見直しの対象とすべきではありません。コロナ禍により中断した活動が再び軌道に乗り、日常を取り戻した段階で改めて課題や問題点を抽出し、その上で市民活動に対する真に必要な支援は何かを慎重に議論すべきです。

川西まほろば会は、コロナ禍を乗り越えようとする市民の皆さんが今もっとも求めているもの、川西に住んで良かったと思える身近な活動が活発にできることにこそ、支援すべきと考えています。

地域振興や文化・スポーツ活動

- ★子どもたちの健全な育成や高齢者の健康増進に寄与する活動
- ★川西市に住んで良かったと思える活動

支援が必要

令和4年度 川西市予算編成に対する川西まほろば会としての要望事項

市民の方々からのご意見を伺い、各種団体との協議を重ねることを通じて、多様化する住民ニーズに的確に応えるよう努めました。



健康で安心・安全なまちづくりのために

- 1 猪名川を含めた大小河川の治水と、減災対策の強化
- 2 消防施設・機能の強化
- 3 大規模団地の再生と空き家・空き地対策
- 4 予防医療・フレイル予防施策の拡充
- 5 包括的かつ継続的な在宅医療・介護の推進
- 6 北部の医療・福祉体制の充実
- 7 ウィズコロナ・ポストコロナ時代における市民生活を支える効果的な行政運営



未来を担う子ども達のために

- 1 市内全域の通学路の安全確保及び危険箇所の整備
- 2 学校のバリアフリー化の推進
- 3 地域と学校の連携と、その充実
- 4 児童・生徒の放課後における居場所の充実
- 5 教職員・保育士など教育にかかわる人材の確保
- 6 学校園所への多様な外部人材の活用 (SSS、SSW、スクールロイヤー、GIGAスクールサポートスタッフ等)
- 7 学校におけるタブレットPC導入後のハード・ソフト面の運用支援
- 8 子どもの発達・成長過程における課題の確認と、切れ目のない支援の充実
- 9 いじめ・不登校・引きこもりなどの未然防止とケアサポートの充実



魅力あるまちづくりのために

- 1 地域ニーズに応じた公共交通の実現
- 2 自転車を活かしたまちづくり(自転車道の整備を含む)
- 3 行政DX(デジタル・トランスフォーメーション)の推進
- 4 里山の自然を活かしたまちづくり
- 5 歴史・伝統文化を守り、活かしたまちづくり (AR技術などICTの活用)
- 6 産業ビジョンの推進
- 7 地域活動の核となる公共施設や拠点の充実
- 8 子育てしやすいまちづくり



川西市議会 保守系会派

川西まほろば会

所属議員紹介

にしやま ひろとも
西山 博大 [5期目]

会派 幹事長

- ・議会運営委員
- ・建設公企常任委員
- ・市立病院整備調査特別委員長
- ・善意銀行運営会委員

くほ よしたか
久保 義孝 [8期目]

市議会 議長

- ・建設公企常任委員
- ・中心市街地・新名神周辺整備調査特別委員

あき た しゅういち
秋田 修一 [3期目]

- ・総務生活常任委員
- ・飛行場対策周辺整備調査特別委員
- ・広報委員長
- ・人権施策審議会委員

まつ くま のり ふみ
松隈 紀文 [1期目]

- ・議会運営委員
- ・厚生文教常任委員
- ・中心市街地・新名神周辺整備調査特別副委員長
- ・都市計画審議会委員

いそ べ ゆう こ
磯部 裕子 [1期目]

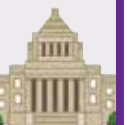
- ・総務生活常任委員
- ・市立病院整備調査特別委員
- ・猪名川上流広域ごみ処理施設組合議会議員
- ・健康づくり推進協議会委員

川西まほろば会は政府や兵庫県に対しても次のような要望をしています。



国に対しての予算編成における最重点要望

- ①ポストコロナにおける新しい行政運営への財政支援
- ②公立病院の再編とネットワーク化に対する財政措置等
- ③特別な支援を要する児童生徒等への合理的配慮の整備(兵庫県に対しても要望)



兵庫県に対しての予算編成における最重点要望

- ①ポストコロナにおける地域経済への新しい財政支援
- ②阪神・淡路大震災災害援護資金貸付金における市の償還期限の延長、及び未償還額に対する市の財政負担の軽減

お問い合わせ

川西まほろば会 議員控室

〒666-8501 兵庫県川西市中央町12-1 川西市役所6階

TEL:072-740-1305

e-mail: k.mahoroba@ipalette.jp URL: https://kawanishimahoroba.jimdofree.com



川西まほろば会は継続的に取り組んでいます

川西市議会の議員定数削減に取り組んでいます!

近隣他市との比較など様々な視点で検証した結果、**定数を26名から24名に減らすよう、次の選挙までに努めます。**定数が削減されても、議会の機能が維持・向上するよう、併せて努めます。

フレイル予防で健康寿命を延ばそう!

「フレイル」って何? 「加齢に伴い身体の予備能力が低下し、健康障害を起こしやすくなった状態」を示し、いわゆる「虚弱」な状態です。コロナの長期化でフレイル状態の人が増えています。**フレイルの状態が続くとやがて介護が必要になりますが、フレイルの状態からの回復は可能です。**これからも、フレイル予防の啓発に努めます。

フレイル予防3つのポイント

1.「食事と口腔ケア」

栄養のバランスと筋肉をつくるのに十分なたんぱく質をとる。お口のケアも忘れずに!

2.「運動」

ストレッチや体操、散歩やウォーキングをし、軽く汗をかく習慣をつける。

3.「人や社会とのつながり」

趣味の会や通いの場への参加、家族や友人との電話やSNSなど活用をする。感染予防は忘れずに!



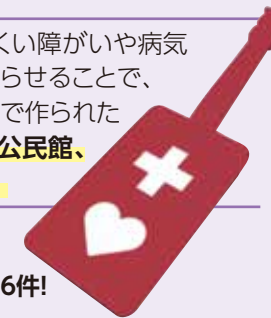
ヘルプマークをもっと知ってもらいたい!

このマークをつけている方を見かけることが多くなってきましたが、**このマークを必要とされる方はもっといるはずで、このマークの意味を、子どもから大人まですべての市民の皆さんに知ってほしいと思います。**

ヘルプマークとは、見た目にはわかりにくい障がいや病気を抱えている人が、そのことを周囲に知らせることで、配慮や援助をしてもらいやすくする目的で作られたマークです。**市役所や保健センター、各公民館、社会福祉協議会などで交付しています。**

川西市のヘルプマーク交付枚数

令和3年10月末時点856件。1年間で+236件!



SDGsへの取り組みを推進しています!

SDGs(エスディーゼイズ)とは、2015年9月に国連で開かれたサミットの中で世界のリーダーによって決められた、国際社会共通の目標です。2030年までの15年間で、17の目標を達成することで、「全世界全ての人たち」が“持続的に”に“人らしく生きる”ことを目指しています。

川西市でも市民の皆さんに広く知られ、一人ひとりが日常生活の中でSDGsに取り組めるよう、行政に対して更なる働きかけをします。



17の目標はこちら



一般質問

市の一般事務に対して、執行の状況や課題、将来の方針や政策的提言を質問



久保 義孝

(令和3年9月)

「川西おもしろ能」のあり方について

Q けやき坂において開催されてきた「川西おもしろ能」は、世界的に著名な彫刻家、流政之氏作の「おもしろ座石舞台」で、国指定文化財能楽保持者である金春欣三氏門下の方々が演能する、芸術的・文化的価値を有する意義深い事業です。また、実行委員会をはじめとする地域住民が大切に育ててきた文化であると認識していますが、この事業が廃止されると聞きました。「川西おもしろ能」の今後の方向性をどのように考えているのかお伺いします。

A 川西おもしろ能は、「川西市に一流の文化を」という市民の発案により始められたもので、実行委員会が運営を担ってきた芸術・文化的にすぐれた新能であると認識している。しかしながら、実行委員会が高齢化や担い手不足を理由に本年8月に解散したことで、事業が廃止になったのは非常に残念である。また、事業を実行委員会に任せきりになっていたことは反省点である。今後は改めて関係者の方々の意向も踏まえ、原点に立ち返りあり方を検討し、**本市で育った文化をつなげられるよう模索したい。**



松隈 紀文

(令和3年9月)

多子世帯への応援から始まる子育てしやすいまちづくりについて

Q 平成27年に市が行った調査では、「将来持つ予定の子どもの数は理想より少ない」とする人に理由を尋ねたところ、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が最も多い結果となっています。出産や育児はいろんな面で負担が増えるが、それを理由に子どもを産み育てることを断念することなく、**安心して子育てできる環境を整えることが、結果としてまちの活性化や住宅都市としての魅力を維持、向上させ、少子化対策につながる**と考えます。特に子育ての負担が大きい3人以上の子を養育する多子世帯には、他自治体で給付金などの支援策が実施されていることから、本市においても同様に取り組む考えはありませんか。

A 本市の子育て支援策は、多子世帯に特化した支援策に取り組んでいる状況にはない。子育て世帯への支援は、国や県と適切に役割分担し、様々な施策を実施する必要があります。**今後も子どもたちの成長を支えあえる施策を推進することで、多子世帯への支援も着実に進めていく。**経済的理由が持ちたい子どもの数に影響する点は課題の一つと認識しており、他自治体の事例を研究し、今後の施策展開に活かしていく。



磯部 裕子

(令和3年6月)

中学校給食と食育、生きた学びを通じ、たくましく生き抜く力を育む

Q 給食センター開設を機に、**家庭科で学んだ知識を活用し給食のメニューを考え実食できるような実践的な食育を推進**する考えはありますか?

A 子どもたちが直接かかわる食育は、**子どもたちの記憶に残り、その後の食生活にも活かされる**と考える。

Q 小学校での「1月17日(おむすびの日)」の学びの継続として、中学校では災害備蓄食を活用し、**食を通じた災害時の教育をする予定**はありますか?

A アルファ化米や乾パンを給食に使用することで防災意識を醸成し、賞味期限切れの近い備蓄食品を有効活用できれば、食品ロスに対する問題意識を持つこともできるため、**献立立案の際には検討したい。**

Q 給食における**旬産旬消や地産地消を支える生産者の皆さんへ支援**、保護者や生徒の皆さんが食材を生産する**農業体験の取り組み**はできませんか?

A 生産者への支援としては、各種補助制度の申請が通りやすいようご指導をしている。また、子どもたちの農業体験については、**給食に使われている農作物を作っている田んぼや畑に表示をする仕組みなど、小さな取り組みから検討したい。**



秋田 修一



健康で安全・安心なまちづくりのために

フレイル予防なども含めた健康増進を図るために、また、新しくできたキセラセせらぎ公園を活用しながら人の交流を深めていくために、**月に一度ノルディック・ウォーク体験会を実施**しています。大阪府ノルディック・ウォーク連盟大阪・北摂支部の岡理事長にお越しいただき、指導していただいています。

せせらぎ公園のジョギングコース(1周550m)で休憩をはさみながらそれぞれのペースで何周か回っています。



川西まほろば会

まほろばとは、「素晴らしい場所」「住みやすい場所」という意味の古語です。

私たちが住む川西市を、より素晴らしいまちにしたい、住みやすいまちにしたいという思いを込めて交渉団体会派名を「川西まほろば会」といたしました。

会派メンバー一同、知恵と力を結集し活動してまいります。